



令和8年10月発行

【実際の保育ドキュメンテーション】

○ 遊びの中の学びを小学校と共有する

幼児期の遊びと小学校での学習は、一見すると異なるものに見えるかもしれませんが。しかし、子どもが遊びの中で主体的に考えたり、友達と関わったりしながら育んだ力は、小学校での学習や生活の基盤となります。例えば、遊びの中で試行錯誤するという経験は、小学校での学習において、問いに対する予想を立てたり、方法を工夫したりする姿につながることを期待されます。

こうした幼児期の学びを捉える手掛かりの一つが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」です。保育参観などの機会に、小学校の先生と子どもの姿について語り合う際には、「10の姿」を共通の視点として活用することができます。

保育参観では、例えば、「お店屋さんごっこ」の様子を参観してもらうことで、子どもが何を考え、どのように試し、友達とどう関わっているかなど、遊びの中で育まれる様々な学びが見えてきます。

遊びの中の姿	そこにある学び	10の姿から見ると
お店をもっと本物らしくしたいと考え、看板や品物を作る。	「こうしたい」というイメージをもち、材料や方法を考えながら、試行錯誤して表現している	豊かな感性と表現 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
商品の並べ方を工夫したり、値段をいくりにするか考えたりする。	友達と考えを出し合い、「どうすればもっとよくなるか」を考え、試している	思考力の芽生え 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
店員とお客になってやり取りをする。	相手の話を聞き、自分の思いや考えを相手に伝えながら、遊びを一緒にやっている	言葉による伝え合い

日常の業務が忙しい中、子どもや先生同士の交流機会は十分に確保できるものではありません。だからこそ、特別な活動を始めるのではなく、園の教育・保育のねらいを日々の業務の中で無理なく小学校に伝えてみましょう。「遊びの中で、こんな学びの姿が見られた」「こんな経験を積み重ねてきた」と、子どもの姿や学びを小学校の先生方に伝えることも、幼保小連携の大切な一歩です。園で育まれてきた学びや育ちを、子どもの姿を通して小学校へつないでいきましょう。

園や学校の課題やニーズに応じて、園内研修や保育参観、幼保小連携、日頃の教育・保育に関する相談などを支援しますので、ぜひ幼児教育アドバイザーを御活用ください。



@pref.kagoshima.greboo

《幼児教育アドバイザーによる支援内容》

- 園内研修の講師
 - ・ 日常の遊びや保育活動の工夫について
 - ・ 保護者との信頼関係の構築について
 - ・ 幼保小連携の意義について
 - ・ 保護者向けの研修
- 架け橋期のカリキュラム作成の伴走・支援



鹿児島県幼児教育センターのホームページの二次元コードです。申請書はこちらからダウンロードを行ってください。

電話：099-286-2089

FAX：099-286-5561

メール：ikusei@pref.kagoshima.lg.jp